

箱根神社大系

はこねじんじやしゃむしよ

作者:箱根神社社務所

成立:昭和5-10年(1930-1935)



解題

Keyword

- 箱根神社
- 箱根権現
- 「管根山縁起并序」
- 万巻
- 源頼朝
- 二所詣
- 「箱根権現縁起絵巻」

箱根神社に関する文献を網羅的に収録したもので、4編(概説、史料編、宝物編、論叢編)で構成されている。箱根神社について調べる際に便利な資料である。



「管根山縁起并序」影印(『箱根神社大系 下巻』掲載図版)

■ 成立経緯

昭和3年(1928)11月、昭和天皇の即位大礼を記念して、箱根神社は国幣小社に列せられた。この記念事業として、初代官社宮司・早山茂が本書の刊行を企画し、当時、内務省神社局考証課長であった宮地直一の監修のもとに、上巻は神社局考証課嘱託・小林健三、下巻は神社局考証課嘱託・大場磐雄が編纂を行った。上巻は昭和5年(1930)、下巻は昭和10年に刊行された。しかし、公刊部数が少なく、研究等で本書を利用することが難しかったため、昭和天皇の箱根神社参拝を記念して、昭和55年(1980)名著出版より復刊された。

■ 箱根神社

箱根神社は、足柄下郡箱根町元箱根に鎮座し、祭神は瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)・木花咲耶姫命(このはなのさくやひめのみこと)・彦火火出見尊(ひこほほでみのみこと)で、もとは

箱根三所権現と称した。

同社の創建を伝える最も古い史料は、鎌倉時代初期の建久2年(1191)に箱根権現別当・行実(ぎょうじつ)が編纂した『筥根山縁起并序』である。それによると、箱根山は古代から山岳信仰の中心地で、山頂の駒ヶ岳に聖占仙人(しょうぜんしょうにん)によって神仙宮が開かれて以来、人々の信仰を集めてきた。箱根山に本格的な堂宇が建立されたのは山岳修行僧・万巻(満願)が来山してからであり、万巻は天平宝字元年(757)霊夢の告げによって三所権現を勧請したと伝える。万巻は養老年中(717-724)、洛邑(平城京)に生まれ、成長すると修行僧となった。このとき日課に『方広経』1万巻を看聞する願を立てたので、万巻上人と称されたという。

箱根権現は鎌倉時代になると、源頼朝をはじめ歴代の将軍や幕府要人の崇敬を受け、発展した。鎌倉幕府の崇敬は、別当の行実が、治承4年(1180)8月、石橋山の合戦に敗れて逃れてきた源頼朝を救ったため、同年10月16日、頼朝は箱根権現へ早川荘を寄進し(『吾妻鏡』(#1))、行実の恩に報いている。頼朝は、旗上げを助けた箱根権現と伊豆山権現を深く崇敬し、両権現にしばしば参詣している。これによって、鎌倉の歴代将軍が「二所詣(にしよもうで)」として公式に参拝するのが習いとなった。『吾妻鏡』によると、安貞2年(1228)10月17日、火災により社頭・僧坊の大半を焼失したが、鎌倉幕府の命により再建が進められ、同年12月には完成している。

鎌倉時代以降も関東の支配者たちに篤く崇敬され、関東公方足利持氏、北条早雲・同氏綱、歴代徳川将軍などにより手厚く保護された。江戸中期以後は、旅や湯治が盛んになり、武家だけでなく、民衆の信仰も盛んになった。

明治元年(1868)、神仏分離により、別当寺である金剛王院東福寺は廃寺となり、箱根神社と称するようになった。神仏分離により宝物・古文書等が流出・破却されたが、その難を逃れ、木造万巻上人坐像、『箱根権現縁起絵巻』、『筥根山縁起并序』、赤木柄短刀、鉄湯釜、浴堂釜などが伝えられている。

内 容

上巻の早山茂宮司の序に「当神社は関東の霊山として、最も古き歴史を有する皇国著名の神祇に座しながら、其の史料としての文献に乏しく、現在神社に所蔵する古文書等余りに寂寥たるに驚嘆せざるを得ぬのである。」と記されている。これは、安貞2年の火災、明治元年の神仏分離時の宝物・古文書等の散逸などが原因である。

本書は、箱根神社に関する文献を同社所蔵のものだけでなく、外からも網羅的に集め、収録している。全体を4編(概説、史料編、宝物編、論叢編)に分け、箱根神社のあらゆる事項にわたる資料・記述が収録され、それによって箱根神社の全容がわかる構成になっている。



構成

<上巻>

箱根神社概説

箱根の地的環境、祭神、神社の歴史、社殿、撰末社、祭祀

史料編

1 文書

菅根山縁起并序、箱根山略縁起、箱根山略縁起（旧南葵文庫本）、
菅根権現縁起絵巻、菅根山神道口訣、社蔵古文書 他

2 記録 ※古文献に見えた箱根神社関係の記事を取扱ったものを収録

1 東鑑、北条九代記、鎌倉九代後記 他

※『吾妻鏡』を主とした政治上の文献

2 更科日記、相模集、寂蓮法師集 他

※此の土地を通過して見聞を誌した古人の紀行文

3 拾芥抄、大日本風土記、和漢三才図会、新編相模国風土記 他

※主に地誌類

4 類聚既驗抄、鹿島宮社例伝記、鹿島問答 他

※主に神祇関係の類本

5 本願寺聖人親鸞伝絵、空華日工集、善隣国宝記 他

※主に仏教関係の書

6 函山誌、箱根（歴史地理臨時号）小田原と箱根（歴史地理臨時号） 他

※明治以後の刊行で、直接箱根神社に関係ある記事を扱ったものを収録

<下巻>

史料編（続）

3 金石文 箱根神社宝物貴重品類、旧東福寺関係、境内所在建造物 他

4 伝説

宝物編

1 箱根神社所蔵宝物及貴重品其他

2 箱根神社以外存在宝物類

論叢編 ※箱根神社関係の論文を収録

史料編（補遺）

箱根神社年表



史料本文を読む

<翻刻本>

●『箱根神社大系』上巻・下巻 箱根神社社務所編・発行 1930-1935

[K17.85/1/1~2]

●『箱根神社大系』上巻・下巻 箱根神社社務所編 名著出版 1980

[K17.85/1A/1~2] ※箱根神社社務所 1930-1935年刊の複製



史料についてさらに知る－参考文献－

<箱根神社について>

- ◆沼田頼輔「箱根神社と万卷上人の彫像 附『箱根山縁起と大夫房覚明』」
（『考古学雑誌』 vol. 18(6) 日本考古学会 1928 [Z202. 5/1] 再録『箱根神社大系 下巻』 [K17. 85/1/2] [K17. 85/1A/2]）
- ◆坂詰秀一「箱根三所権現社跡の調査」（『箱根町誌2』箱根町誌編纂委員会編 角川書店 1971 [K291. 85/46/2]）
- ◆五来重「箱根山修験の二種の縁起について」（『山岳宗教史研究叢書14』名著出版 1980 [180. 8/22/14]）
- 『箱根神社の歴史と祭』箱根町立郷土資料館 1987 [K17. 85/20]
- 『箱根神社：信仰の歴史と文化』箱根神社 1989 [K17. 85/22]
- ◆岡田清一「鎌倉幕府と二所詣」（『鎌倉幕府と東国』岡田清一著 続群書類従完成会 2006 [K24/408]）

<内容について>

- ◆田中一松「箱根権現縁起絵巻について」（『日本美術協会報告』(16) (17) 日本美術協会 1930 再録『箱根神社大系 下巻』 [K17. 85/1/2] [K17. 85/1A/2]）
- ◆*藤懸静也「箱根権現縁起絵巻に就て」（『国華』(538) 国華社 1935）
- ◆竹内尚次「箱根権現縁起絵巻への一考」（『箱根町誌1』箱根町誌編纂委員会編 角川書店 1967 [K291. 85/46/1]）
- ◆村重寧「箱根権現縁起絵巻 解説」（『神奈川県文化財図鑑 絵画篇』神奈川県教育委員会 1981 [K06/29/7]）
- ◆前田雅之「箱根権現の縁起」（『国文学 解釈と鑑賞』 vol. 52(9) 至文堂 1987 [Z910. 5/16]）
- ◆松原茂「『箱根権現縁起』の再検討」（『続々日本絵巻大成7』小松茂美編 中央公論社 1995 [K17. 85/33]）